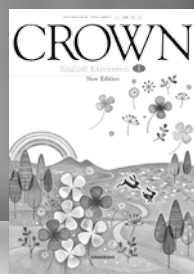


『CROWN English Expression I New Edition』 —文法の学習を表現力の育成へ—



元電気通信大学 松原好次

はじめに

グローバル人材育成の緊急性がかまびすしく耳に入ってくる昨今、英語教育に求められるものも大きく変容しています。そのような流れの中で、『クラウン英語表現 I (CROWN English Expression I) (以下、『クラウン表現 I』)』の改訂版の編集が行われました。「英語によるコミュニケーション能力育成」というスローガンを耳に留めながら、「クラスサイズに悩み、大学入試への対応に追われる教育現場の実態」を見つめて行う編集作業は、必ずしもスムーズにいったわけではありません。しかし、スローガンと現場の実態に横たわる溝を絶えず意識し、両者の架け橋となるべき「伝える能力育成のための教科書作り」を模索してきた結果、『クラウン表現 I』の改訂が終了しました。本稿では、改訂の基本方針、主な変更点、改訂版の活用方法について述べたいと思います。

改訂の基本方針

以下の3点を改訂の基本方針としました。

1. 重要文法項目の記述を精密化する

内容の濃い表現を行う(つまり、深く伝える)ためには相応の言語形式が不可欠であるという観点から、重要文法項目の記述を格段と詳しく改める。

2. 文法学習と表現活動の緊密性を強化する

文法・語法の学習過程で、生徒一人ひとりにとって興味・関心のあることを適切な場面設定の中で表現する経験の積み重ねが重要だと考え、いくつかの点で、形・意味・使用を統合するための改善に取り組む。

3. 高校生の心に訴える題材を選定する

文法・語法の学習は、ややもすれば味気ないものになりがちなので、生徒の知的好奇心を掻き立て、しかも芯のある題材の精選を心がける。

主な変更点

1. 「改訂の基本方針 1」に則り、以下の変更を加えました。

現行版は『クラウン表現 I』で文法の基礎編、『クラウン表現 II』で応用編となっていますが、今回の改訂にあたり、『クラウン表現 I (改訂版)』で文法の重要項目を10のレッスンで詳細に扱うこととしました。(『II』では、重要項目の復習とその他の文法項目を扱う予定です。また、機能表現およびスピーキング<Speech, Presentation, Discussion, Debate>も『II』で扱うこととなります。)

たとえば、現行版『クラウン表現 I』Lesson 2 (見開き2ページ)で扱っていた時制の項目を、改訂版では以下のように格段と詳しく改めました(表1参照)。

表1 『クラウン表現 I (改訂版)』 Lesson 1 : 時制

時制① (A) 現在を表す① : 現在形 (B) 現在を表す② : 現在進行形 (C) 過去を表す : 過去形・過去進行形
時制② (A) 未来を表す① : will ~, be going to ~ など (B) 未来を表す② : 未来進行形 (C) 現在形・進行形の注意すべき用法 (D) 未来を表すその他の表現
時制③ (A) 現在完了形① : 完了・結果 (B) 現在完了形② : 経験 (C) 現在完了形③・現在完了進行形 : 継続
時制④ (A) 過去完了形・過去完了進行形 (B) 未来完了形・未来完了進行形 (C) 未来のことで使われる現在完了形

この変更によって、表現上の微妙な差異に関する明示的な説明が可能になりました。一例として時制②の(B)では、未来進行形を以下のように説明しています。

- ① I **will be surfing** in Hawaii this weekend.
・ will be ~ing 「~しているだろう」[未来の基準時での動作の進行]
 - ② This train **will be making** a brief stop at Hiroshima Station.
・ will be ~ing 「~することになっている」[個人の意志と無関係に起こる予定]
- ◆ When **will you be leaving?** (いつ出発することになっていますか) [丁寧]
cf. When *will you leave?* (いつ出発するつもりですか)

2. 「改訂の基本方針 2」に則り、以下2点の変更を加えました。

① 「Start-Up Grammar」の新設

見開き左ページの「導入文」に続き、右ページに「Start-Up Grammar」という解説のページを設け、本課で扱う文法項目がスムーズに導入できる手立てを施しました。英語で表現するにあたって、なぜ、特定の言語形式が使用されるのかを分かりやすく説明してあります(例:なぜ能動態でなくて受動態、動名詞でなくて不定詞なのか等)。

たとえば、前述のLesson 1 (時制)に付された「Start-Up Grammar」には、過去形と現在完了形の違いがイラスト入りで分かりやすく提示されています。

- (1) I **lived** in Nara ten years ago.
* 過去形⇒遠くに離れた距離感を表現する(時間的に離れているイメージ)
- (2) I **have lived** in Nara for ten years.
* 現在完了形 ⇒ <have + 過去分詞>で、過去の出来事を現在と関連付けて述べる(過去に起きたことが、現在まで延びてきているイメージ)

② 「Express Yourself」の新設

さらに、現行版『クラウン表現 I』で2レッスンおきに置かれていた「Speaking」を「Express Yourself」と改称し、各課の末尾に配置しました(表2参照)。ここで生徒たちは、本課で学んだ文法項目と「発表に必要な表現」を活用して、スピーチやプレゼ

ンテーションの原稿作成をすることになります。Listen→Write→Speakという有機的な流れを通じた表現力の育成がねらいです。

3. 「改訂の基本方針 3」に則り、以下のように新題材を投入しました。

現行版『クラウン表現 I・II』では題材選択について、「可能な限り世界各地の文化・風俗習慣・言語・科学技術・自然・地理・歴史などに題材を求めると同時に、日本の事物についても英語で表現する際に必要と思われる題材を選ぶ」という基準を設けました。

その方針を堅持し、本課では世界各国関連の題材として、フィンランドの教育事情を取り上げました。また、Express Yourselfにも、世界各地に関わるトピックを意識的に挿入しました。たとえば、異文化理解の観点から『Cultural Stereotypes』や『A School in New Zealand』など新規の題材を導入しました。

一方、日本については、浮世絵師の歌川広重、2020年東京オリンピックなどを本課の題材として新しく採用しました。伝統的事物と並んで、同時代的要素を含むトピックも意識的に配してあります。たとえば、『Medical Technology』『An Eco-friendly School Festival』などです。このような題材が高校生の知的好奇心を刺激し、表現活動への移行をスムーズにしてくれるものと確信しています。

語彙のレベルでは、日常生活において使用頻度の高い語・句・連語だけでなく、生徒の向上心を掻き立てるため、多少難易度の高い語句も挿入してあります。現行版掲載の相対性理論、ロボット工学、レ

表2 『クラウン表現 I (改訂版)』: Express Yourself

文法の重要項目を詳細に10課→各課のExpress Yourselfで表現活動(その課の文法項目+発表に必要な表現)

Lesson 1	時制	A School in New Zealand (挨拶/紹介)
Lesson 2	助動詞	Nishikori Kei (情報源・出典)
Lesson 3	受動態	Cool Japan (図表の説明/分類)
Lesson 4	不定詞	An Eco-friendly School Festival (計画の概要)
Lesson 5	動名詞	World Heritage Sites (理由/結論)
Lesson 6	分詞	Cultural Stereotypes (事実・情報の伝達)
Lesson 7	比較	Mars (詳細な説明/発表のまとめ方)
Lesson 8	関係詞	Antoni Gaudí (経験の報告/発表のまとめ方)
Lesson 9	仮定法	Medical Technology (考え・感想の求め方)
Lesson 10	接続詞	Hoshino Michio (自分の意見の述べ方)

アース、風力発電、二酸化炭素排出量などといった語句の他に、PISA、CT、MRIなどの新しい語句も解説や設問の一部に加えてあります。

改訂版の活用方法

改訂版『クラウン表現Ⅰ』による表現力向上のための活用方法を、具体的に述べたいと思います。

1. 「Start-Up Grammar」で文法学習と文脈(使用場面)の絡み合いに目を向ける

新設の「Start-Up Grammar」では、この課で学ぶ言語形式(文法項目)が、どのような場面で実際に使用されるかを分かりやすく説明しています。たとえば受動態を学ぶLesson 3には、「なぜ受動態を使うのか」という問いかけの後、以下の例文が提示されています。

(1) Look at that picture. Picasso painted it.
[that picture ≠ Picasso]

(2) Look at that picture. **It was painted** by Picasso. [that picture = it]

そして、情報の流れ(旧情報→新情報)から考えて、

(1)より(2)のほうが自然であると解説しています。

「Start-Up Grammar」を起点として、次のページから受動態に関する例文とExercisesが詳細に扱われます。受動態の肯定文・否定文・疑問文・Wh-疑問文、完了形・進行形・助動詞を含む受動態、by以外の前置詞を用いる受動態、SVOO・SVOCの受動態、get・句動詞・sayなどの受動態といった具合に、現行版と比べ格段と網羅性が大きくなっています。

しかし、単なる文法解説にとどまらず、「なぜ、どのような使用場面で、どのような働き(機能)をもって、この言語形式が使用されるのか」という観点から、さまざまな工夫を施しました。解説ページ内に置かれた「コラム」を、その一例として挙げることができます。「過去形・進行形による丁寧表現」と題されたLesson 1(時制)のコラムには、以下の例文が記されています。

(1) I **wonder** if you can help me. (普通)

(2) I'm **wondering** if you can help me. (少し丁寧)

(3) I **wondered** if you could help me. (かなり丁寧)

(4) I **was wondering** if you could help me. (最も丁寧)

そして、進行形や過去形がポライトネス表現と深

く関わっていることを述べています。言語形式の提示にとどまらず、その文法項目の使用される場面や機能を絶えず意識させようとしているのです。

2. 「Express Yourself」でスピーチとプレゼンの構成を把握する

前述のとおり、改訂版の『クラウン表現Ⅰ』では、各課の末尾に「Express Yourself」を見開き構成で10レッスン配置してあります。ここでは、Lesson 9(仮定法)の末尾に置かれた『Medical Technology』を例に、「Express Yourself」でスピーチの基礎作りがどのようになされるかを確認することにします。

(1) **Input** : 新しい医療技術の可能性についての一節を聴きながら、内容的に重要な語句を空所補充する。Lesson 9の文法項目である仮定法はスクリプトに含まれているが、Inputでは文法形式に焦点を当てず、あくまでも内容に集中させる。

(2) **Output** : 音声で得た情報を基に、そのトピックについてのスピーチ原稿を用意する。(1)で得た情報を空所に補充するだけで完結する形式。このパラグラフには、仮定法を含んだ文が使用されている。また、後述の「発表に必要な表現」と「つなぎ言葉」も使用されている。空所補充の後、生徒たちは末尾に置かれた文(I hope that _____)の下線部を考える。

なお、Input / Outputでは、Focus on FormやDictoglossという指導法の活用も可能である。

(3) **Tool Box** : 「発表に必要な表現」と「つなぎ言葉」が例示されている。このレッスンでは、「聞き手の考え・感想を求める」(What do you think about ...? など)と「希望を述べる」(I hope that など)、および「強意・驚き」を表すつなぎ言葉(In fact, など)が例文で示されている。

(4) **TRY** : 英文で設定されたタスクに応じて原稿作成がスムーズに進むよう、以下のような展開上のヒントが付されている。

①**導入** : 社会における科学技術の役割について、どう思いますか。

②**メインアイデア／具体例** : ～は…において重要な役割を果たしています。～のおかげで、私たちは…することができます。

③**結び** : ～が、ますます発展することを期待しています。

上記の日本語に該当する英語表現は、Outputや「発表に必要な表現」「つなぎ言葉」で提示済み。また、原稿作成時に役立つように、Words & Phrasesというコラムも置かれている。さらに、巻末付録⑦の語彙集を活用することもできる。

以上の手順に従って、『Medical Technology』の「内容」に注目させると同時に、Lesson 9で扱った「言語形式(仮定法)」が、医療技術の可能性を語るという文脈で使用されていることに気づかせることができます。さらに、スピーチ(あるいはプレゼン)の構成(論理展開法)が明示されていますので、学習者は大きな負担なくスムーズに到達目標の表現活動(writingとspeaking)に移行できます。

3. その他の手立てを活用して表現力を高める

(1) 本課導入文

まず各課の導入文を書き改めるとともに、学習のターゲットとなる言語形式を傍注として一目瞭然にしました。導入の段階で視覚的に確認したうえ、音声を通じて、あるいは、その後のStart-Up Grammar、文法説明、Exercisesを通じて、文法項目の定着を図りたいからです。

(2) 名言コラム

今回の改訂にあたり、高校生の心に響くと思われる名言を新たに精選しました。暗記暗唱するように勧めただけなら幸いです。外国語学習において暗記暗唱がいかに重要であるか、そして表現力養成の出発点としていかに効果的であるかが、見直されて然るべきだと考えるからです。

* I have not failed. I've just found 10,000 ways that won't work. (Thomas Edison : 時制)

(3) 各セクション末尾のTRY

本課見開きの右下に付されているTRYには、Show and Tell式の発表、下線部補充形式によるペアの会話や自己表現活動が配されています。本課で学習した文法項目を実際に使用することによって、表現力を高めることができます。たとえばLesson 9(仮定法①)のTRYを見てみましょう。

* If I had a time machine, I would like to meet Leonardo da Vinci because I would like to ask him who Mona Lisa really was. (下線部分を言い換えて話しましょう)

生徒は、「タイムマシーンに乗って会いに行きたい

人物」について自己表現を求められます。ペア／グループでの発表の後、質疑応答に展開することによって、「授業を実際のコミュニケーションの場面にする」ための契機としてTRYを活用できます。

(4) 文法のまとめ(解説編と問題編)

解説編には「日英語の発想のちがひ」とか、「くだけた表現とていねいな表現のちがひ」などが問答形式で記されています。また問題編には、本課で学んだ項目が着実に身につくように、精選された練習問題が付されていますので、文法・語法の定着に活用できます。その際、生徒はヒントを手がかりにして、英語で表現できる実感を得ることが出来ます。

・「禁煙エリア」→「喫煙できないエリア」(関係副詞 where)

(5) 付録① 各課の基本例文

巻末に付けられた「各課の基本例文」には、本課で扱いきれなかった用法も含めて、多様な例文が提示されています。英語・日本語が左右に並置されているため、暗記暗唱がしやすくなっています。そのうえ、簡潔な説明が付されているため、文法項目の復習・定着に適しています。

・ **Behind the church stood** a red brick building. (教会の後ろには、赤いレンガの建物が立っていた。)[場所・方向]を表す副詞句が文頭に出たことによる倒置]

おわりに

さて、改訂の基本方針、主な変更点に続き、活用方法について述べてきました。改訂版『クラウン表現Ⅰ』は、文法の学習を表現力の育成に結びつける様々な工夫が凝らされた教科書に生まれ変わりました。また、現行版に比べて文法の記述が詳細になったり、難易度の高い語彙が使用されていたりしているものの、生徒が少し背伸びをすれば、spoken Englishとwritten English双方において高度な表現力を獲得できる教科書となっています。

なおまた、この教科書と同時に、新しく全面改訂された『クラウン総合英語(3版)』が刊行されます。教科書と同じ例文が採られており、より詳しい解説が施されています。教科書と同様にぜひ読んでいただけたら幸いです。